

3 具体的な設問の分析

(1) 国語

昨年度の課題1

継続課題

- 古典の文章（漢文）を読むことについて、文章全体の内容を的確に読み取ることがA問題では課題がある。

【今年度の出題のねらい】

- 文章全体の内容を的確に読み取ることができる。

A問題 5四

平成28年度 A問題 5四

予章有戴氏女、久病不差。見一小石、形像偶人。女謂曰、爾有人形、豈神。能差我宿疾者、吾将重汝。其夜、夢有人告之。吾将祐汝。自後疾漸差。遂為立祠山下。

（「列異伝」による。）

この文章の内容と一致しているものを、次の①～④の中から選び、その番号を書きなさい。

- ① 娘がいつも石にばかり話しかけていたので、父は娘を心配していた。
- ② 娘は長く患っていた病気を治してくれた石を、約束通り大切にした。
- ③ 娘は悪い夢ばかり見るので、父親の教えに従い山の麓に祠を立てた。
- ④ 寝ている間に娘に神が宿り、なかなか治らなかった父の病が治った。

解答状況及び誤答分析

解答類型	①	② (正答)	③	④	その他	無答
割合 (%)	6.1	53.4	26.2	12.7	0.0	1.6

正答の②を選んだ生徒の割合は53.4%であり、娘は、病気が治ったのは石のおかげだと考え、約束通り祠を立てた行為を大切にすることと関連付けて内容を読み取ることが十分できているとは言えない。

誤答の③を選んだ生徒の割合が26.2%であり、「吾」を戴氏と解釈し、③を選んだものと考えられる。

【関連する過去の問題】

平成27年度 A問題 5四

行六七里、至大壙。居易置地、蹲而守。見有牝虎当産、不得解、匍匐欲死。輒仰視、易悟之、乃為探出之、有三子。生畢、牝虎負易還。再三送野肉於門内。

(「搜神記」による。)

この文章の内容と一致しているものを、次の①～④の中から選び、その番号を書きなさい。

- ① 蘇易は、虎を助けたお礼として、たびたび虎から肉をもらった。
- ② 蘇易は、うずくまった虎が、何をしているのか分からなかった。
- ③ 蘇易は、疲れ果てた虎をねぎらうために、しばしば肉を届けた。
- ④ 蘇易は、生まれた子供を盗もうとして、虎に傷を負わされた。

解答状況及び誤答分析

解答類型	① (正答)	②	③	④	その他	無答
割合 (%)	53.0	5.5	33.5	6.2	0.0	1.8

正答の①を選んだ生徒が、53.0%にとどまっており、約半数の生徒が正答に至っていない。主語を理解しておらず、最後の一文だけに注目して誤った選択肢を選んだことが考えられる。

【定着状況】 ●：課題

- 漢文については、平成27年度のA問題の通過率53.0%に対し、平成28年度の通過率は53.4%であり、0.4ポイント上昇した。しかし、本文中の語句が表す内容について十分把握できていないことがうかがわれ、文章の内容を叙述に即して正確にとらえることが十分できていない。

【学校における教科の指導と設問の通過率との関連】

指導 国語科では、古文及び漢文を読むときには、文語文法や句法についての知識をもとに、前後の関係をとらえながら読み取らせる指導を行っている。

		よく・やや あてはまる	あまり・まったく あてはまらない
通過率 (%)	A問題 5 四	57.3	38.7

- ・ かなり相関がある。
- ・ 「あてはまる」と回答した学校の生徒と「あてはまらない」と回答した学校の生徒との通過率の差は18.6ポイントである。

指導改善のポイント

- 古典の文章を読むことの指導において、場面ごとの登場人物の行動や言葉に注目させ、文章全体の内容を的確に読み取らせる指導が必要である。

⇒p.59 (ア)

- 古典の文章（漢文）を読むことについて、文章全体の内容を的確に読み取ることがB問題では課題がある。

【今年度の出題のねらい】

- 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ることができる。

B問題 5四

平成28年度 B問題 5四

余 邑 孝 廉 陳 琮、性 灑 落。會 構 別 墅 一 所、地 名 二 里 岡、雖 云 附 郭、然 邑 之 北 邨 也。前 後 冢 累 累 錯 置、不 可 枚 數。或 造 君 顰 蹙 曰、目 中 （ I ） 見 此 輩、定 不 樂。孝 廉 笑 曰、不 然。目 中 日 日 見 此 輩、乃 使 人 不 敢 不 樂。
 （「雪濤諧史」による。）

この文章の内容と一致しているものを、次の①～④の中から選び、その番号を書きなさい。

- ① 別荘からはたくさんの墓が目に入るので、孝廉は死を身近に感じながら過ごして気が滅入った。
- ② 墓地を見ながら過ごしているからこそ、孝廉は生きているうちに楽しもうという気になった。
- ③ 別荘の周りには建物が何もないので、孝廉はたくさんの墓があるだけでも気分がまぎれた。
- ④ ある人から別荘を悪く言われ、孝廉は墓地を目にするたびに面白くないと思うようになった。

解答状況及び誤答分析

解答類型	①	② (正答)	③	④	その他	無解答
割合 (%)	9.5	63.7	12.7	12.8	0.0	1.3

正答の②を選んだ生徒の割合は63.7%であり、登場人物の孝廉の言葉に注目し、心情を読み取ることができている。誤答の中では③、④を選んだ生徒も多かった。③については、二重否定を理解することはできているが、使役を読み取って解釈することができていない。④については、二重否定を読み取って解釈できていないことが考えられる。

【関連する過去の問題】

平成 27 年度 B問題 5四

当臣之臨河持竿心無雜慮、唯魚之念。投綸沈鉤、手無輕重、物莫能乱。魚見臣之鉤餌、猶沈埃聚沫、吞之不疑。所以能以弱制強、以輕致重也。大王治國、誠能若此、則天下可運一握。將亦奚事哉。楚王曰、善。

(「列子」による。)

この文章の内容と一致しているものを、次の ①～④ の中から選び、その番号を書きなさい。

- ① 天下を治める者が、釣りばかりしていたら、政治がおろそかになり国が乱れてしまう。
- ② 雑念を捨て、物に乱されないようにすることができれば、天下を治めることができる。
- ③ 君主は、釣りを楽しむ余裕を持ちながら、最小限の労力で天下を治めることが大切だ。
- ④ 天下を治めるためには、先のことを見越して、あれこれと策略をめぐらせるのがよい。

解答状況及び誤答分析

解答類型	①	② (正答)	③	④	その他	無解答
割合 (%)	10.2	45.9	16.0	26.3	0.1	1.4

正答の②を選んだ生徒が 45.9%であり、5割に達していない。誤った選択肢④を選んでいる生徒が、26.3%いることから、「釣り」が「政治」の喩えであることが理解できず、文章の内容を断片的に読み取り、文章に部分的に一致しているものを選択したことが考えられる。このことから、文章の内容を叙述に即して正確にとらえることが不十分である。

【改善状況と課題】 ○ : 改善, 定着

- 漢文については、平成 27 年度の B 問題の通過率 45.9%に対し、平成 28 年度の通過率は 63.7%であり、17.8 ポイント上昇した。文章の内容を叙述に即して正確にとらえることができている。

【学校における教科の指導と設問の通過率との関連】

指導 国語科では、古文及び漢文を読むときには、文語文法や句法についての知識をもとに、前後の関係をとらえながら読み取らせる指導を行っている。

		よく・やや あてはまる	あまり・まったく あてはまらない
通過率 (%)	B問題 5四	66.4	52.2

- ・ やや相関がある。
- ・ 「あてはまる」と回答した学校の生徒と「あてはまらない」と回答した学校の生徒との通過率の差は、14.2 ポイントである。

- 古典の文章（古文）を読むことについて、文章全体の内容を的確に読み取ることがA問題では課題がある。

【今年度の出題のねらい】

- 文章全体の内容を的確に読み取ることができる。

A問題4四

平成28年度 A問題4四

薄は、色々の花もてる草の中に、ひとり立ちてかたち^aつくるはず、^bかしこからず、心なき人には風情を隠し、^c心あらん人には風情を顕はす。只その人の程々に見ゆるなるべし。みの笠取りもとめて行きけん人の、晴間まついのちの程もしらじといひけん、道のころざしはかくおもひ入れなんこそ有りかたけれ。

（「独言」による。）

この文章の内容と一致しているものを、次の①～④の中から選び、その番号を書きなさい。

- ① 風流の道は、命がけですすきを取りに行くくらい熱心でありたい。
- ② 風流の道は、雨がやむのを待てないくらい熱心でありたい。
- ③ 風流の道は、命の価値を感じさせないくらい熱心でありたい。
- ④ 風流の道は、みのや笠を借りに行きたいくらい熱心でありたい。

解答状況及び誤答分析

解答類型	①	②（正答）	③	④	その他	無解答
割合（%）	11.1	52.4	18.7	15.8	0.0	1.3

正答の②を選んだ生徒の割合は、52.4%であり、約5割にとどまっている。誤答を選んだ生徒は、①、③、④とほぼ均等に分布しており、本文全体を読まず、文章中の「いのち」、「みの笠取りもとめて」、「すすき」などの一部に着目し、選択肢を選んだと考えられる。このことから、文章の内容を叙述に即して正確にとらえることが不十分であることが分かる。

【関連する過去の問題】

平成27年度 A問題4四

小田原といふ寺に教懐聖人といふ人ありけり。後には高野に住みけるが、新しき水瓶の、様なども^ア思ふ様なるを儲けて、殊に執し思ひけるを、縁に打ち捨てて、奥の院へ参りにけり。かしこにて、念誦などして一心に信仰しける時、この水瓶を思ひ出だして、あだに並べたりつる物を、^ビ人や取らむと不審にて、心一向にも^シあらざりければ、由なく覚えて、帰るやおそきと、あまだりの石たたみの上に並べて、打ちくだき捨ててけり。

(「発心集」による。)

この文章の内容と一致しているものを、次の①～④の中から選び、その番号を書きなさい。

- ① 教懐聖人は、大切にしていた水瓶を、欲しがっていた人に盗まれた。
- ② 教懐聖人は、毎日お経を上げて、気に入っていた水瓶を大切に保管した。
- ③ 教懐聖人は、いらなくなった水瓶を捨てたが、惜しくなって取りに戻った。
- ④ 教懐聖人は、気に入っていた水瓶を、信仰の妨げになると思い割った。

解答状況及び誤答分析

解答類型	①	②	③	④ (正答)	その他	無解答
割合 (%)	6.1	4.2	11.8	76.8	0.1	1.0

正答の④を選んだ生徒の割合は、76.8%であり、単語や表現の一部だけにとらわれることなく、文章全体の内容を的確に読み取ることができている。教懐聖人が大切にしていた瓶をなぜ打ち割ったのかという理由をとらえていることが分かる。

【改善状況と課題】 ●: 課題

- 古文については、平成27年度のA問題の通過率76.8%に対し、平成28年度のA問題の通過率は52.4%であり、24.4ポイント下降している。この原因の一つとしては、平成27年度の文章は「登場人物の行動」が把握しやすかったが、平成28年度の関連する問題の文章は、「情緒」を問う問題であったため、生徒にとってはやや難易度が高かったものと考えられる。

【学校における教科の指導と設問の通過率との関連】

指導 国語科では、書かれた内容を理解するだけでなく、筆者の意図や文章全体の主題を考える学習活動を取り入れている。

		よく・やや あてはまる	あまり・まったく あてはまらない
通過率 (%)	A問題4四	52.4	36.2

- ・ やや相関がある。
- ・ 「あてはまる」と回答した学校の生徒と「あてはまらない」と回答した学校の生徒との通過率の差は、16.2ポイントである。

指導改善のポイント

- 古典の文章を読むことの指導において、本文中に根拠を求めつつ、登場人物の心情を自分の言葉で表現させる指導が必要である。

⇒p.60 (イ)

- 説明的文章を読むことについて、文章の内容を叙述に即して的確に読み取ることがB問題では課題がある。

【今年度の出題のねらい】

- 叙述に即して文章の内容を的確に読み取ることができる。

B問題³三

平成28年度 B問題³三

(浜本隆志『窓』の思想史)による。

(Ⅱ)(Ⅲ)にそれぞれあてはまる語の組み合わせとして最も適切なものを、次の①～④の中から選び、その番号を書きなさい。

- ① Ⅱ 石 Ⅲ 木 ② Ⅱ 木 Ⅲ 石
 ③ Ⅱ 神 Ⅲ 仏 ④ Ⅱ 仏 Ⅲ 神

解答状況及び誤答分析

解答類型	① (正答)	②	③	④	その他	無解答
割合 (%)	59.8	4.0	32.9	2.6	0.1	0.6

正答の①を選んだ生徒の割合は59.8%であり、6割をやや下回っていることから、十分とは言えない。誤答の③を選んだ生徒の割合が32.9%であった。本文中に根拠がないにもかかわらず、西洋は「神」、日本は「仏」という一般的な観念の思い込みにより、誤答を選んでいるものと考えられる。

【関連する過去の問題】

平成27年度 B問題³一

(池上英洋『西洋美術史入門』による。)

傍線部a「その国の言葉」とありますが、美術の場合、これは何に当たりますか。本文中から四字で抜き出して書きなさい。

解答状況及び誤答分析

解答類型	① (正答)	②	その他	無解答
割合 (%)	91.0	3.6	3.6	1.8

正答の「視覚言語」を抜き出すことができていた生徒の割合が91.0%であったことから、叙述に即して文章の内容を的確に読み取ることができている。

会話による理解と美術の理解という対比関係が、それぞれ「音声言語」と「視覚言語」とに対応していることが理解でき、叙述に即して文章の内容を的確に読み取ることができているものと考えられる。

【改善状況と課題】 ● : 課題

- 平成27年度の通過率90.1%に対し、平成28年度の通過率は59.8%であり、30.5ポイント下降している。叙述に即して内容の対比関係を的確に読み取ることができていない。この原因の一つとして、平成27年度の問題では、対応関係にある事象間での対比関係をとらえることを求めたため、正答を導くことが比較的容易であったのに対し、平成28年度の問題では、「障子」「ガラス」という言葉に注目して、本文中の根拠に基づき西洋と東洋の対比関係をとらえることを求められたため、難易度が高くなったことが考えられる。

指導改善のポイント

- 説明的文章を読むことの指導において、語に対する基礎知識を持たせながら、文章の内容を叙述に即し的確にとらえさせる指導が必要である。

⇒p.61 (ウ)

- 古典文法における文語文法についての理解はB問題では課題がある。

【今年度の出題のねらい】

- 動詞「入る」の活用について理解している。

B問題4二

平成28年度 B問題4二

今は昔、震旦の長安の市に粥を多く煮て、市の人に^a食はしむる姫ありけり。この市に行き違ふ人の員知らず。日の出づる時より日の入る時に至るまで、市の門を出入するに、市の門の前に粥を多く煮儲けて、百千の器を並べ置きて、その粥をその器に盛りて人に食はしむる功德を造りけり。

しかるに、始めはその粥を杓に汲みて慥かに器に^b入れけるに、漸く年月積るに随ひて功入りにければ、一、二丈を去りて杓に粥を汲みて擲げ入るるが、塵ばかりも泛さざりけり。猶年月を経て久しく積るに随ひて、四、五丈去りて杓に粥を擲げ入るるが、露ばかりも泛さざりけるを、見る人のいふ様は、「然らば何事なりといふとも、年来の功入らば^cかくの如くあるべき事なりけり」と云ひ合ひけるとなむ語り伝へたとや。

(「今昔物語集」による。)

傍線部b「入れ」の、文中における活用形は何形ですか。次の①～④の中から選び、その番号を書きなさい。

- ① 未然形 ② 連用形 ③ 連体形 ④ 已然形

解答状況及び誤答分析

解答類型	①	② (正答)	③	④	その他	無解答
割合 (%)	8.7	53.4	22.0	15.2	0.1	0.7

正答の②を選んだ生徒の割合が53.4%と約5割ことどまっている。「入れ」はラ行下二段活用の動詞であり、ここでは助動詞「けり」に接続する形であることから、正答は②連用形となる。しかし、誤答③連体形を選んだ生徒が22.0%いることから、動詞の活用や助動詞の接続についての理解が不十分であることが分かる。

【関連する過去の問題】

平成27年度 B問題4二

経家水干の袖くくりて、袴のそば高くはさみて、烏帽子かけして庭におり立ちたるけしき、まづゆゆしくぞ見えける。^aかねて存知したりけるにや、^{くつわ}轡をぞもたせたりける。その轡をはげて、さし縄とらせたりけるを、すこしも事ともせずはねはしりけるを、さし縄にすがりてたぐりよりて乗りてけり。やがてまりあがりて出でけるを、すこしはしらせてうちとどめて、のどのどと歩ませて幕下の前にむけてたてたりけり。見る物目を^bおどろかさずといふ事なし。よくのらせて、「今はさやうにてこそあらめ」とのたまはせける時、おりぬ。^c大きに感じ給ひて 勘当ゆるされて^{うまや}厩の別当になされにけり。

（「古今著聞集」による。）

傍線部b「おどろかさ」の、文中における活用形は何形ですか。次の①～④の中から選び、その番号を書きなさい。

- ① 未然形 ② 連用形 ③ 連体形 ④ 已然形

解答状況及び誤答分析

解答類型	① (正答)	②	③	④	その他	無解答
割合 (%)	62.8	15.9	13.7	6.7	0.1	0.9

正答の①を選んだ生徒の割合が62.8%であり、動詞の活用についての理解は一定程度できている。「おどろかさ」はサ行四段活用の動詞であり、「おどろかさ」の形となるのは未然形のみである。また、ここでは助動詞「ず」に接続することからも、正答を得ることができる。

【定着状況】 ●：課題

- 平成27年度のB問題の通過率62.8%に対し、平成28年度のB問題の通過率は53.4%であり、9.0ポイント下回っている。

動詞の活用について理解が不十分であり、古典文法における文語文法についての理解に課題がある。

【学校における教科の指導と設問の通過率との関連】

指導 国語科では、文語文法の指導を読むことの指導に即して繰り返し行っている。

		よく・やや あてはまる	あまり・まったく あてはまらない
通過率 (%)	A問題 ⁴ 三	58.4	33.7

- ・強い相関がある。
- ・「あてはまる」と回答した学校の生徒と「あてはまらない」と回答した学校の生徒との通過率の差は、24.7ポイントである。

指導改善のポイント

- 古典の文章を読むことの指導において、本文の内容の理解に即して既習の文法事項を繰り返し確認させ、文語文法の理解を深めさせる指導が必要である。

⇒p.62 (工)

今年度の課題

- 古典の文章（漢文）を読むことについて、叙述に即して文章の内容を的確に読み取ることはA問題では課題がある。

【今年度の出題のねらい】

- 文章中の語の表す内容としてふさわしいものを選ぶことができる。

A問題 5三

平成28年度 A問題 5三

予章有戴氏女、久病不差。見一小石、形像偶人。^a女謂曰、爾有人形、豈神能差我宿疾者、吾将重汝。其夜、^b夢有人告之。^c吾将祐汝。自後疾漸差、遂為立祠山下。

（「列異伝」による。）

傍線部c「吾」と同じ内容を示す表現として、最も適切なものを、次の①～④の中から選び、その番号を書きなさい。

- ① 石 ② 戴氏 ③ 女 ④ 祠

解答状況及び誤答分析

解答類型	①（正答）	②	③	④	その他	無答
割合（％）	31.6	29.5	27.4	9.8	0.2	1.5

正答の①を選んだ生徒が、31.6%にとどまっており、文章の内容を叙述に即して的確に読み取ることができていない。誤答の②及び③を選択した生徒の割合があわせて56.9%であり、主語や指示語を理解しておらず、傍線部を含む一文だけに注目して、選択肢を選んだことが考えられる。

【関連する過去の問題】

平成26年度 A問題⁵二

汝不知夫螳螂乎。怒其臂以當車轍。不知^a其不勝任也。是其才之美者也。戒之慎^b之。積伐而美者、以犯之、幾矣。

(「莊子」による。)

傍線部b「之」は何を指しますか。最も適切なものを、次の①～④の中から選び、その番号を書きなさい。

- ① 螳螂 ② 其臂 ③ 車轍 ④ 才之美

解答状況及び誤答分析

解答類型	①	②	③	④ (正答)	その他	無答
割合 (%)	29.0	12.6	14.4	42.5	0.1	1.4

正答の④と答えた生徒の割合が42.5%であり、文章の内容を叙述に即して的確に読み取ることができていない。誤答である①を選んだ生徒は具体的な事柄である「螳螂」に注目したものと考えられる。

【学校における教科の指導と設問の通過率との関連】

指導 国語科では、古文及び漢文を読むときには、文語文法や句法についての知識をもとに、前後の関係をとらえながら読み取らせる指導を行っている。

		よく・ややあてはまる	あまり・まったくあてはまらない
通過率 (%)	A問題 ⁵ 四	27.8	3.8

- ・ かなり相関がある。
- ・ 「あてはまる」と回答した学校の生徒と「あてはまらない」と回答した学校の生徒との通過率の差は24.0ポイントである。

指導改善のポイント

- 古典の文章を読むことの指導において、本文にある根拠を踏まえながら登場人物の心情や行動に注目させることにより文章の内容を的確にとらえさせる指導が必要である。

⇒p.63 (才)